

緑豊かな自然環境を身近に 町内各所で植樹活動が

5月9日、小岩組共栄会（会長・石澤正義東川電気工事社長）が幼児センターでエゾヤマザクラの苗木植樹をしました。

同会30周年を記念しました。町内13社から14人が参加し、プロの職人ならではの素晴らしいスピードで樹高約2.5メートルの苗木30本を植えました。来客用駐車場周辺や園内各所に植えた苗木は、早ければ4、5年後には開花も期待できそうです。

同会のボランティア活動は今年6年目。幼児センターが開園以来初の大規模増改築することになり、今秋周辺整備として同園敷地内に「小さな森」を作る計画があるため、「緑いっぱい環境を子供たちに残したい」と願いを込めた植樹となりました。



幼児センターでエゾヤマザクラ植樹

5月10日、キトウシ森林公園で写真の町実行委員会（会長・松岡市郎町長）主催のキトウシ植樹会が行われました。

今年で「写真の町」宣言25年目を迎えた記念事業の第1弾。公募で集まった町内22家族が親子で参加しました。

公園内に植えたのは、ナナカマド、どんぐり、くるみの苗木合計300本のうち、公園入り口付近に美しい並木に育つよう願いを込め、樹高約50センチの幼木約40本を手分けして植えました。野鳥やエゾリスなど小動物が住みやすい森環境を作る取り組みです。

町内在住の写真家、竹田津実氏は「今までの植樹は、人に都合の良い木を植えてきた。しかし、これからは野生の動植物に役立つ植樹をする



実のなる木の植樹会(キトウシ森林公園)

必要がある」と話しました。

写真の町25年記念事業は、この後竹田津氏の作品を展示して、森の写真展「えぞ王国」森の写真展（6月7日から）が約5カ月間のロングラン展として始まる予定。手作り展示会を実現させるため、展示写真のための額縁制作をするワークショップも同月31日、同公園で開きました。

5月16日、コンサドール旭川（U-15）の主トレニンググラウンド、通称・コンサフィールド（西町2）に隣接の公園「ふれあいグリーンパーク」で植樹祭を行いました。

㈱ニトリ（札幌、似鳥昭雄社長）の社会貢献活動「ニトリ北海道応援基金」から助成金をいただき、樹高約2.5メートルのエゾヤマザクラ90本、カツラ、ミズナラ各5本ずつ合計100本を園内に植樹しました。

昨年町内に全面移転して活動して



ふれあいグリーンパーク植樹祭

いるコンサドール旭川（佐藤尽監督）の12歳から15歳までの選手45人と旭川、富良野、町内の父兄ら約30人が集まりました。早ければ1、2年のうちに花が咲く木もそうです。

5月20日、東川ライオンズクラブ（小坂忠会長）が特別老人ホーム「羽衣園」、老人保健施設「ひだまりの里」の庭で、樹高約1.6メートルのエゾヤマザクラの苗木25本を植樹しました。

「桜堤の名所に」と毎年会員が植えてきました。今年で5年目。会員9人が手分けして植樹しました。昨年までの本数を合わせて延べ100本になり、5年前の木は見事な開花を楽しめるまでに育っています。年ごとに増える桜堤の風景は、年々彩り鮮やかな春の訪れを告げ、お年寄りの目を楽しませています。



ライオンズクラブの植樹(羽衣園で)